



電気事故と素人考え

静岡支部 事務局長 石上 勉

先日JRの架線事故で、列車が立ち往生することがありました。多くの乗客が近くの駅まで、線路を歩く羽目になってしまいました。原因を伺えば、電力を供給する架線のつなぎ目というか、電力が切れないように供給するための架線の複線部分に、パンタグラフが停止して、高電圧側から低電圧側に過電流が流れ一瞬にしてショート状態に陥り架線が切断してしまったとのことです。

私など素人考えでは、架線は常に同じ電圧を供給していると考えていましたが、そんなことは無いようです。また、歩道を歩いていて、看板が落ちてきて大怪我をなされた女性がおりました。看板は落ちてこないという先入観で歩いています。このように、身の回りには思いがけない危険がいっぱいです。

常に電気工事にかかわるお仕事をなされている皆様から見れば、当たり前のことと思われる安全対策が、素人考えでないがしろにされたり、無視されたりしているかもしれません。電気工事にかかわる専門家の皆様でも慣れ、あるいは思い違いなどで危険な行動をとっている場合があるかも知れません。

そのようなことから静岡支部では、安全体感実習を行うこととしました。蛸足配線・過電流による発熱、発火事故、ダミー人形を使つての、高圧電線の接触によるやけど事故、あるいは飛ばされ事故、回転体に巻き込まれて手や足がもぎ取られる事故、高所作業中の墜落事故の衝撃のすごさ、つり荷の落下事故、飛来物落下事故などを体感して、いかに身の回りは危険がいっぱいであるかを知り、事故防止に努めることといたしました。他支部の皆様も事故『0』を目指して作業していただきたいと思います。

